

読書の幅を広げる実践的指導力の育成 —「ブックトーク」演習における選書を中心に—

Development of practical teaching skills for children to read various books:
An analysis of booktalks activity in university students

徳永 加代*

kayo Tokunaga

平成29年版小学校学習指導要領が求める子どもの読書の幅を広げる読書指導に焦点をあてる。「ブックトーク」とは、聞き手にその本を読みたいという気持ちを起こさせることを目的に、あるテーマに沿って数冊の本を関連付けて紹介することである。学校図書館司書教諭資格科目「読書と豊かな人間性」において「ブックトーク」演習を行い、その選書を中心に、読書の幅を広げる実践的指導力の育成について考察を行った。

その結果、受講生は、「ブックトーク」の有効性に気づき、次の3つの読書の幅を広げる実践的指導力(①自分の読みを深める力 ②読みを共有する力 ③体系的に選書する力)を身につけたことが明らかになった。

1. 本論の目的

小学校学習指導要領(文部科学省、2017)では、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、学校図書館の機能を計画的に利活用し、児童の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実することが求められている。読書指導については、子どもの読書の幅を広げ、生涯にわたる読書習慣を身に付けることが重視されている。そのためには、教員養成課程段階において、読書の幅を広げる実践的指導力を備えた人材を養成しておくことが重要になる。

本論では、読書の幅を広げる実践的指導力の育成について、「ブックトーク」演習における選書に焦点を当てて考察を行う。

2. 求められる読書指導とは

読書は、指導者が教えるという一方的な学習ではなく、学習者の自発的で主体的な学習であるべきであろう。読書への抵抗をなくし、「〇〇の本を読みたい」「他の本はないのか調べてみたい」「〇〇の本をみんなに紹介したい」など、読書意欲を高める読書指導をしなければならない。

第四次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(文部科学省、2018)では、小学校、中学校、高等学校における読書指導について、次のように記されている。(引用中の下線は論者が添えた。以下同様)

小学校、中学校、高等学校等の各学校段階において、子供が生涯にわたる読書習慣を身に付け、読書の幅を広げるため、読書の機会の拡充や図書の紹介、読書経験の共有により、様々な図書に触れる機会を確保することが重要である。具体的には、以下の活動が挙げられる。

- ・全校一斉の読書活動

* こども教育学科 准教授

- ・ 推薦図書コーナーの設置
- ・ 卒業までに一定量の読書を推奨するなどの目標設定
- ・ 子供が相互に図書を紹介し、様々な分野の図書に触れる活動、読書会、ペア読書、お話（ストーリーテリング）、ブックトーク、アニメーション、書評合戦（ビブリオバトル）等の子供同士で行う活動

「子供が生涯にわたる読書習慣を身に付け、読書の幅を広げる」と述べているように、読書指導を通して、読書の幅を広げ、生涯読書人を育てることが求められている。

「様々な図書に触れる機会を確保すること」の具体例として、「ブックトーク」が挙げられていることに注目したい。

3. 「ブックトーク」とは

3.1 ブックトーク」の定義

全国SLAブックトーク委員会（1990）は、「ブックトークとは、教師や図書館の専門職員などが、児童生徒学生あるいは広く図書館の利用者を対象に、特定のテーマに関するすぐれた図書群を、批評や解説を試みながら順序よく紹介し、それらの図書の利用を促進しようという目的を持って行う教育活動である。」と定義している。そして、その目的は「子どもたちに、本に対する興味を持たせ、本を読むきっかけを作り、本の世界の楽しさを知らせること」と述べている。

「ブックトーク」の目的は、本の内容を教えることではなく、その本の面白さを伝え、聞き手にその本を読みたいという気持ちを起こさせることである。テーマに沿って幅広い分野の本をつなぐことによって、聞き手は様々な本に触れ、読書の幅を広げることができる。つまり、語り手は「ブックトーク」を通して、聞き手が知らなかった本との出会いを演出することができるのである。

3.2 司書教諭資格取得科目における「ブックトーク」演習の有効性

学校図書館司書教諭講習科目「読書と豊かな人間性」の「ねらいと内容」（文部科学省、1998）において、「ブックトーク」は、【表1】のように、読書の指導方法の一つとして示されている。

【表1】「読書と豊かな人間性」のねらいと内容

ね ら い	内 容
児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法の理解を図る	<ol style="list-style-type: none"> 1. 読書の意義と目的 2. 読書と心の教育（読書の習慣形成を含む） 3. 発達段階に応じた読書の指導と計画 4. 児童・生徒向け図書の種類と活用（漫画等の利用方法を含む） 5. 読書の指導方法（読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク等） 6. 家庭、地域、公共図書館等との連携

生野・豊澤・北村・中谷（2007）は、司書教諭資格取得科目「読書と豊かな人間性」において、小学校4年生を対象に教材「ごんぎつね」（光村図書4年下）の発展として、グループになって「ブックトーク」を実施させている。その展開例や感想から、受講者が「ブックトーク」の目的（学習者に対して図書群を紹介し、読書への意欲を喚起する）を概ね把握し、「ブックトーク」を設計する力や実践する力等の一端を指摘し、その力量を教師は身に付けておく必要があると論

じている。

鈴木・林（2019）は、司書教諭資格取得科目「読書と豊かな人間性」において大学2年生を対象に「ブックトーク」演習を行った。受講者の振り返りから、「ブックトーク」の有効性について【ブックトークは読書意欲を喚起する】【ブックトークは、読書の世界を共有する場として有効である】【ブックトークを作成することで精読の力がつく】【ブックトークは教科学習に活かすことができる】と考察している。

この4点を読書の幅を広げるために必要な指導力に置き換えると、次のようになる。

- ① 自分の読みを深める力（ブックトークを作成することで精読の力がつく）
- ② 読みを共有する力（ブックトークは、読書の世界を共有する場として有効である）
- ③ 体系的に選書する力（ブックトークは読書意欲を喚起する
ブックトークは教科学習に活かすことができる）

4. 「ブックトーク」演習を用いた実践的指導力の考察

以下、論者が、学校図書館司書教諭資格科目「読書と豊かな人間性」において、こども学科の大学2年生（38名）を対象に行った「ブックトーク」演習の選書を中心に読書の幅を広げる実践的指導力について考察を行っていく。

4.1 「ブックトーク」演習の概要

〔活動名〕「ブックトーク」（3冊5分以内）をしよう

〔活動目標〕「ブックトーク」演習を通して、読書の幅を広げる実践的指導力を身につける。

〔演習過程〕具体的な演習過程は、【表2】のとおりである。

【表2】「ブックトーク」の演習過程における活動内容

演習過程	活動内容
テーマ設定	・「ブックトーク」について理解する。 ・対象者を意識した興味・関心が高まるテーマを設定する。
選書	・テーマに関連する様々な分野の本を探す。 ・本を比較して評価し関連づける。
細案の作成	・中心になる本を決め順番を考える。 ・本をどのような言葉を使って紹介するのか、シナリオを作る。
実演	・グループ（6人）になって、聞き手の反応を見ながらブックトークを行う。

「ブックトーク」を経験したことのある学生は、38名中7名であった。そこで、「ブックトーク」について理解するために、はじめに論者が「平和」をテーマにした「ブックトーク」（小学生対象）を行った。

その際、「ブックトーク」の留意点として、次の3点を指導した。

- ① 対象者を決めて、具体的なテーマを設定すること。
- ② テーマに沿った本を最低10冊は読み、紹介する3冊を選ぶこと。
- ③ できるだけ様々な分野の本を選ぶこと。

4.2 「ブックトーク」の展開例

【表3】は、受講生が実演した「ブックトーク」（対象者は小学校4年生、テーマは「環境とエネルギー」）のシナリオメモである。

【表3】「ブックトーク」のシナリオメモ

紹介した本	シナリオメモの言葉
	「環境とエネルギー」というテーマで本を紹介していきます。 みなさん、水素って知っていますか。燃えることのできる空気です。1gの水素が核融合した時のエネルギーは石炭何グラム分でしょうか。みなさん、知りませんよね。クイズにされると興味が湧きませんか。
『チャレンジ！環境クイズ王 101』	『チャレンジ！環境クイズ王 101』という本には、自然、水、食べ物、ゴミ、エネルギーや大気汚染など、様々な環境問題に関するクイズがあるので、ぜひチャレンジしてみてください。
『ゼロ・エネルギー住宅のひみつ』	環境を守る方法として、エネルギーの無駄使いを減らすことも重要です。エアコンのつけっぱなしは明らかに無駄使いと分かりますが、暑さ、寒さには耐えられませんか。でもエネルギーをあまり使わずに寒暖対策ができる家があるのです。それは『ゼロ・エネルギー住宅のひみつ』に紹介されています。漫画で楽しく読めて、環境に優しい家のひみつを知ることができます。この本はシリーズなので、疑問に思っていることを調べてみるのにもいいですよ。
『クリーンで無限大！太陽エネルギーの大研究 身近な利用から宇宙太陽光発電まで』	エネルギーを使わないことも大切ですが、環境に合わせてエネルギーを利用することも大切です。一番身近なエネルギーは何でしょう。太陽です。『クリーンで無限大！太陽エネルギーの大研究 身近な利用から宇宙太陽光発電まで』には、植物と太陽の関係から宇宙の太陽の使い方まで、太陽光発電以外にも生活を快適にする方法が書いてあるので、ぜひ読んで実践してみたいですね。

【表3】の「ブックトーク」を実演した受講生は、工夫したことについて、次のように振り返っている。

「総合的な学習の時間において、環境問題に取り組むことを想定して〈環境とエネルギー〉というテーマにした。クイズから始めることにより、興味が湧くのではないかと考え、様々な環境問題が載っている『チャレンジ！環境クイズ王 101』を紹介した。学習まんがのシリーズを入れ、太陽エネルギー利用の可能性をイラストと写真で解説している図鑑的なものへと深めていけるようにした。本の内容の説明だけでなく、面白いところを少し抜き出して紹介した。他の興味のある分野の本も読んでほしいと思い、シリーズ本を紹介した。」

「総合的な学習の時間において、環境問題に取り組むことを想定して」という記述のように、各教科の単元の導入や学習の発展を意識して、その単元と関連した本と出会わせることによって、子どもたちの興味・関心を高め、学習活動が活発になるだろう。特に、探究的な学習においては、主体的に情報を求めて本を読むことにより、様々な事実や真実などを学びとり、本と対話をしながら学習内容を深めていく。教科学習との関連を考えて本を選ぶという意味において、教員養成課程において「ブックトーク」を行う意義は高いと言うことができよう。

「クイズから始める」「学習まんがのシリーズを入れ」「図鑑的なものへと深めていけるように」からは、小学校4年の学習者が楽しみながら学習を深めて行けるように本を選んでいることがわかる。

【表4】は「環境とエネルギー」をテーマにした「ブックトーク」【表3】に対する受講生の評価である。

『チャレンジ!環境クイズ王101』について「一冊の本で一つのことだけでなく、同時に多くを学べるや楽しみながら学ぶことができる本」「雑学の本から学ぶ」と評価している。「学研まんがでよくわかるシリーズは、読みやすいので導入には効果的だ」のように、導入には学習まんがも活用できるととらえている。「シリーズの本を紹介しているので、他の本も読んでみようと思った」のように、シリーズ本は、読書の幅を広げるために有効であることを感じている。『『小学館の図鑑NEO 地球』も環境問題に使える気がします。』のように、自分が選んだ本と関連づけて考えている。

このように、語り手の意図を考えながら紹介された本を評価することを通して、子どもたちの読書の幅を広げるためには、まず本に関する知識を増やして体系的に選書する力をつけていくことが不可欠であることを学ぶことができている。

このように、語り手の意図を考えながら紹介された本を評価することを通して、子どもたちの読書の幅を広げるためには、まず本に関する知識を増やして体系的に選書する力をつけていくことが不可欠であることを学ぶことができている。

4.3 「ブックトーク」演習における選書の考察

「ブックトーク」は、単なる本の紹介ではない。本と本が必然性をもってつながるようにしなければならない。本を精読して自分の読みを深め、多様なジャンル・レベルの本のつながりを考えることを通して、読書の幅を広げるための選書について理解するようになっていく。

「ブックトーク」において、テーマに沿ってどのような本を選び、つなぐかが最も重要である。受講生の選んだテーマを分類すると、次の3つになった。

① 身近なテーマ

例：友達、贈り物、家族、命、食べ物、生き物、家、靴、熊、母、ペット、

② 身近ではあるがやや抽象的なテーマ

例：成長、つながり、思いやり、自分、一生懸命、動物と人間、チャンスと希望
選択、大きな木、人と人のつながり、リーダー、好きなことをやり続ける
感動、食事、優しさ、大切なもの

③ 教科内容に関連したテーマ

例：言葉・平和（国語科）、世界・世界旅行・歴史（社会科）、
星・花・植物・環境とエネルギー（理科）、野菜（家庭科）

「友達」「家族」「食べ物」「成長」「自分」のように、身近な広がりのあるテーマを設定していることがわかる。注目したいのは、「③教科内容に関連したテーマ」である。言葉（国語科）、世界（社会科）、環境とエネルギー（理科）、野菜（家庭科）などを選んでいる。受講生の多くが教員をめざしているためである。

【表4】「環境とエネルギー」をテーマにした「ブックトーク」【表3】に対する受講生の評価

受講生	評価の言葉
A	一冊の本で一つのことだけでなく、同時に多くを学べることや楽しみながら学ぶことができる本だったのがいいなと思いました。
B	ときどきクイズを入れていて、楽しかった。シリーズの本を紹介しているので、他の本も読んでみようと思った。
C	問いかけながら紹介していたので、気になるという気持ちが高くなりました。雑学の本から学ぶと楽しいことがわかりました。
D	環境とエネルギーというテーマは難しそうに感じましたが、学研まんがでよくわかるシリーズは、読みやすいので導入には効果的だと感じました。
E	あまり興味のない環境のことで、クイズだったら楽しんで読めるだろうなと思いました。私が選んだ『小学館の図鑑NEO 地球』も環境問題に使える気がします。

【表5】は、受講生が実演した「ブックトーク」の選書の一部である。

【表5】受講生が実演した「ブックトーク」における選書

受講生	対象	テーマ	紹介した本	受講生が選書について工夫したこと
F	小学3年生	家族	①『中国の民話 王さまと九人のきょうだい』 ②『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』 ③『ママがおばけになっちゃった』	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードは「助け合い」「精神的なつながり」。お母さん、お父さんだけでなく、兄弟やおじいちゃん、おばあちゃん、支えてくれる人々ということを選んだ。 ・タイトルに「兄弟」「おじいちゃん」「ママ」という言葉が入っているので、<u>親近感がわき、興味を示してくれるだろう。</u> ・3年生国語では外国の民話を学習するので、中国の民話も紹介した。
G	小学6年生	家族	①『ラブ・ユー・フォーエバー』 ②『ちいさなあなたへ』 ③『生まれる』	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードは「愛情」。子どもたちに親子の愛情のきずなを感じてほしいと考えて、<u>母親と赤ちゃんが登場する本を選んだ。</u> ・年齢に関係なく、メッセージが伝わってくる絵本を紹介した。
H	小学2年生 4月	植物	①『たんぼぼ』 ②『ふしぎなガーデン知りたがりやの少年と庭』 ③『小学館の図鑑NEO〔新版〕植物』	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードは「春」「花」。たんぼぼは通学路にも咲いているため、興味を持って見つけることができる。 ・②は実話であるため、より身近に感じるだろう。通学路などで見つけた花などを本で調べる習慣をつけるきっかけになってほしいと考えた。
I	小学5年生	水辺の生き物	①『スイミー小さなかしこいさかなのはなし』 ②『はじめての飼育②メダカ』 ③『小学館の図鑑NEO POCKET 魚』	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードは「メダカ」「育てる」。 ・5年生理科では、メダカについて学習する。学級において飼育していくことが考えられる。育て方など、調べ学習につながるように意識した。 ・図鑑には豆知識などが記載されているので幅広く読み込める。『はじめての飼育』は、シリーズになっているので、学級文庫にそろえておく。
J	小学6年生 3月	チャンスと希望	①『世界中の子どもたちが』 ②『エリカ 奇跡のいのち』 ③『春さんのスケッチブック』	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードは「平和」「卒業前」。 ・①は写真集。②も写真が印象的な作品。③の作品中にある絵について、その絵が載っている『「無言館」への旅 戦没画学生巡礼記』を示して説明する。 ・チャンスというのは様々な形に変化していくものなので、<u>色々な希望を探してほしいと伝えられた。</u>

4.4 「ブックトーク」の選書の工夫について

受講生Fは、テーマとして「家族」を考え、「助け合い」「精神的なつながり」というキーワードをもとに「支えてくれる人々」が登場する本を選んでいく。「タイトルに兄弟、おじいちゃん、ママという言葉が入っているので、親近感がわき、興味を示してくれるだろう」と、小学校3年生の聞き手を意識できている。

受講生Gの場合は、Fと同じ「家族」をテーマにしているが、「愛情」をキーワードに、母親と赤ちゃんが登場する本をつないでいく。絵と本文の関連性の強い絵本のよさを活かすことにより、読書へのハードルをさげて、読み広げにつなげようとしたのであろう。

受講生Hは、テーマを「植物」とし、通学路など身近なところにも関心を持たせ、主人公が子

どもである実話へとつなぎ、見つけた花を調べることができる図鑑を最後に紹介している。身近なことから調べる習慣をつけるきっかけになるであろう。

受講生Iは、テーマを「水辺の生き物」とし、理科の学習を踏まえて、メダカを飼育することを前提に組み立てている。既習教材『スイミー』を紹介して興味を誘い、飼育に必要な本、幅広く調べることのできる図鑑をつなぎ、調べ学習につながるように工夫している。

受講生Jは、6年生卒業前の3月に行うことを想定して、テーマを「チャンスと希望」にしている。平和に関する3冊の本をつなぎ、平和と希望についてしっかり考えさせようとしている。「ブックトーク」を行う時期に留意する学生が出てきたことは、指導者にとって驚きであり、この活動の有効性を強く感じさせられた。

このように、「ブックトーク」において、本のつながりを意識して様々な分野の選書をする事により、図書を比較したり吟味したりしながら、取捨選択してつなげていく力、体系的に読書する力を培うことになる。普段読まないであろう本なども視野に入れることにより、聞き手の読書の幅を広げる力になるのである。

4.5 「ブックトーク」演習を通して学んだことに対する考察

演習の最後に「ブックトーク」を相互評価した後、「ブックトーク」演習を通して学んだことを振り返る機会を設けた。語り手と聞き手の両方の視点から、読書の幅を広げる実践的指導力について考える活動といえよう。

【表6】は「ブックトーク」演習を通して受講生が学んだこと（受講生の記述を論者がまとめたもの）の一部である。

【表6】「ブックトーク」演習を通して受講生が学んだこと

3つの力	受講生の記述
自分の読みを深める	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや思い入れを伝えることで、読みたいという気持ちを深めること。 ・いろいろな捉え方、考え方があるということ。また本の紹介を聴いて自分自身がどう思うかを考えること。 ・本でいろいろな考えやその思いを知ること。 ・ブックトークでその人の人柄も分かること。 ・意外な部分からテーマを取り出して、話の幅を広げていくこと。
読みを共有する	<ul style="list-style-type: none"> ・語り手からメッセージを読み取れると、とても面白く深い学びにつながる。 ・人が読んでいる本を知るのが面白い。本は人間性の表れだということ。 ・語りかけることでブックトークに参加することの一体感を感じた。クイズ等、自分が見ているだけの存在ではない、ということを感じさせる工夫があると楽しさが増すこと。 ・資料を用いたり、本の中の言葉を引用したり、自分の経験を語ったりすることで、紹介者の本の世界に引き込まれること。 ・疑問から始めると「なににな?」と引き込まれること。
体系的に選書する	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなテーマや観点があること。紹介された本を読みたい。 ・紹介するテーマに沿ってストーリー性をもって話していた。全く関係なさそうな本なのにつながっているのが面白いこと。読んで確かめてみたい。 ・伝え方には自分らしさが大事。紹介する本の繋がり方で聞きやすさが変わると思う。またブックトークをすることで、自分の本の知識が増えていくこと。 ・絵本を使ったことでメッセージ性を強めることができること。ノンフィクションなど色々なジャンルが使えた方が良いこと。 ・対象学年には少し難しいかと思われるような本も選んでいたが、そのテーマに興味のある子どもにとっては大切だということ。

今回の「ブックトーク」演習での成果と、読書の幅を広げるために必要な指導力（①自分の読みを深める力 ②読みを共有する力 ③体系的に選書する力）との関係について考察する。

① 「自分の読みを深める」について

語り手は、どのような順序によって本をつなぎ、どのような紹介をすれば、より効果的に紹介できるのかを考え、自分のシナリオを作って語る。つまり、自分の読みを深めていると言えよう。「いろいろな捉え方、考え方があるといふこと」という記述のように、多様な捉え方、考え方に触れることができた述べ、さらに、「本の紹介を聴いて自分自身がどう思うかを考えること」と書いているように、自分自身に引きつけてトークを聞こうとしている。

② 「読みを共有する」について

「ブックトーク」は語り手から聞き手へという一方向の活動ではなく、語り手と聞き手、聞き手同士のコミュニケーションの場でもある。「語りかけることでブックトークに参加することの一体感を感じた」「資料を用いたり、本の中の言葉を引用したり、自分の経験を語ったりすることで、紹介者の本の世界に引き込まれる」と感じているように、語り手は、紹介する本の特徴を活かし、本文中の挿絵や写真、図を見せたり、クイズを入れたり、自分の考えや感想を述べたりしながら、テーマに関心を持たせる工夫をしている。聞き手は、そのことにより本の世界に入り込み、それぞれの本の魅力を共有していくことになる。

③ 「体系的に選書する」について

語り手は、対象者を意識しながらテーマに沿って、物語、絵本、昔話、写真集、図鑑など様々なジャンルから、実際に紹介する冊数よりも多くの本を集め、ジャンルや難易度などバランスを考えて選書する。つまり、体系的に選書していると言えよう。「対象学年には少し難しいかと思われるような本も選んでいた」のように、難易度に幅を持たせることにより、手に取られにくい本も紹介できるだろう。「いろいろなテーマや観点があること。紹介された本を読みたい」「全く関係なさそうな本なのにつながつているのが面白い。読んで確かめてみたい」と気づいているように「ブックトーク」は、新しいジャンルの本への興味・関心を高めて、本と人をつなぐきっかけをつくることを実感している。

このように、「ブックトーク」演習を通して、①自分の読みを深める ②読みを共有する ③体系的に選書することができるようになることを学んでいる。

5. 読書の幅を広げる実践的指導力育成についての成果と課題

「ブックトーク」は、あるテーマにそって、対象のグループを考慮して、何冊かの様々なジャンルの本をつないで紹介し、読書意欲を起こさせることを目的とする。読書への興味・関心を喚起し、読書の幅を広げるための指導法として、今後ますますその重要性は高まっていくであろう。

これらの考察の結果、受講生は「ブックトーク」演習を通して、自らが幅広く読書をする必要性に気づき、次の3つ読書の幅を広げる実践的指導力を身につけたことが明らかになった。①自分の読みを深める力 ②読みを共有する力 ③体系的に選書する力。

今後の課題として、さらに豊かな読書習慣を身に付けさせることができるように、「自分の読んだおすすめの本を様々な方法を使って伝え合わせる力」を備えておく必要がある。例えば、読書へのアニメーション、ピブリオバトルなど、様々な読書活動を体験することを通して、受講生たちの読書の幅を広げる実践的指導力をさらに高めていきたい。

引用文献

- 文部科学省：小学校学習指導要領総則編、pp23、2017
文部科学省：第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」2018年、pp23、2018
全国SLAブックトーク委員会編：ブックトークー理論と実践一、pp.13-14、1990
文部科学省：学校図書館司書教諭講習規程の一部を改正する省令について（通知）文初小第80号、（別紙2）司書教諭の講習科目のねらいと内容、1998
生野金三・豊澤弘伸・北村好史・中谷陽子：ブックトークの実践に関する研究、白鷗大学論集、21、第2号、pp.217-241、2007
鈴木守・林容子：『読書と豊かな人間性』におけるブックトーク演習の意義、常葉大学教育学部紀要、39、pp.1-20、2019

参考文献

- 岡山市学校図書館問題研究所編：ブックトーク入門、教育史料出版会、1986
生野金三：ブックトークを指導する実践的力量的養成の試み、月刊国語教育研究、386、日本国語教育学会編pp.46-51、2004
高桑弥須子：学校ブックトーク入門、教文館、2011
東京子ども図書館編：ブックトークのきほんー21の事例つき、東京子ども図書館、2016、
野口久美子：学校図書館司書教諭課程におけるブックトークの実践ー2年間の試行錯誤から得られた成果と課題一、図書館総合研究／図書館総合研究会編集、10、pp.30-40、2010
府川源一郎・長編の会編：読書を教室に（小学校編）、東洋館出版、1995
堀江祐爾：言葉の力を育てる 堀江式国語授業のワザ、明治図書、2015